



No.2 令和3年5月11日 文責/古屋

## 立夏（りっか）

校庭の桜もいつしか葉桜となり、木々の緑がまぶしい季節となりました。暦の上では「立夏」、夏の始まりです。

さわやかな五月晴れの下、新緑の木々は最も成長が盛んな時期に入り、風は、木々の間を吹き抜ける心地よさから、「薫風」「若葉風」「草分けの風」といった呼び名まであります。季節だけでなく、言葉からも初夏の清々しさを感じられますね。

## 今年も家庭訪問→個別懇談

本来ならこの時期に実施される家庭訪問ですが、このコロナ禍ですから、本校では、個別懇談とさせていただきます。せっかくお越しいただくのですから、有意義な時間となるよう努めました。が如何でしたか。

各担任とも、少しでもお子さんのことについて、保護者の方と情報共有でき



ればと思い、懇談に臨みました。また、保護者の方のお考えを知ることで、今後の指導に生かすことも考えております。初めて言葉を交わした方も、昨年度から継続している方も、子どもさんに合った時間を送れるよう努めました。短時間でしたので、まだまだ話し足りなかったことと思います

が、ここからスタートとして、今後、さらによりよい関係づくりに努めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。



## 1日の始まりはあいさつから

毎朝8時頃になると、子どもたちの学校到着が始まります。私は、上履きに履き替えた子どもたちに、玄関であいさつすることを日課としています。元気にあいさつをしてくれる子、ニコニコとしながら恥ずかしそうに小声で言う子、元氣なく無表情で一言も発しないまま教室へ向かう子などさまざまです。

私の印象としては、全体的に、朝から疲れた表情の子が多く、あいさつも少ないように感じます。大きな声ではなくとも、普通に声に出してあいさつが交わせるといいなと思います。（もちろん、理想は「大きな声で元氣よく」です）

あいさつは、**相手との良好な関係づくり**をしていくために欠かせません。それが「会話のきっかけ」となり、徐々に話が発展していきます。だいぶ前に目にした横断幕の言葉です。

**「あいさつは、心と心を結ぶ魔法の言葉」**

小学生が考えた標語ですが、言い得て妙だと思いませんか。これからもっともっと、「おはよう」と声に出し、友だちや先生、旗振りの保護者や地域の方と心を結ぶ風土を創っていきたいと思います。もちろん、我々教職員も気持ちのよいあいさつを励行していきます。ご家庭でも、引き続き「あいさつのススメ」をお願いします。

## ～ 学校の「顔」として ～

6年生は、竜王北小の最上級生として、日々頑張っています。児童会長の鷹野さんの「すばらしい竜王北小を創ろう」という呼びかけに6年生が呼応し、4月の1か月、「1年生を迎える会」の運営をどうするのか、話し合いを重ねながら取り組んでいました。



かわいらしいメダル、楽しい北小クイズ、1年生の発表の場など、細部に工夫がみられ、中身の濃い時間となりました。今回の「1年生のために」頑張った思いは、また次の「誰かのために」続いていくはずです。北小の6年生は、確実に「学校の顔」になりつつあります。6年生の思いは大きく、それを具体的な形にしていくために、我々教職員も、しっかりサポートしていきたいと思います。



上:6年生、メダルの製作中  
下:2年生からメダル贈呈

また一步、全校**425名の絆**が深まった時間でした。



## 校庭から元気な声..

授業中に、校庭から元気な声が聞こえてきました。興味をそそられ、覗いてみると、4年生が2校時に、そして、3年生が3校時に体育でリレーをしていました。近くまで行ってみると、どの子も集中し、「抜きつ抜かれつ」の好勝負に大興奮！必死に走り、精一杯応援する「全員」での盛り上がりを見せていました。

リレーは、自分が走るときは一時でも、スタートからゴールまでのすべての時間をみんなで共有できる**一体感**をもつ不思議な魅力があります。勝つことの喜び、負けることの悔しさはもちろんありますが、それだけに留まらない、みんなで考え、みんなでバトンをつなぎ、みんなでその時間を共有する、別の要素が加わります。だからこそ、みんながのめり込むのかもしれない。走り終えた子どもたちのキラキラした表情からも、それをうかがい知ることができました。

○4年生:

最下位のチームにも、みんなで温かい拍手を送っていました。さすが優しい4年生！



○3年生:

半端ない盛り上がり。全集中する姿に、リレーの醍醐味満載でした。さすが元気な3年生！



☆今は、5・6年生もリレーに取り組んでいます。やっぱり高学年生の走りは力強い！そして、バトンパスも上手！さすがです。

